乾田直播栽培の早期播種「あきたこまち」における早期入水の生育特性

福島県農業試験場相馬支場
平成17年度試験成績概要

1　部門名　水稲－水稲－水稲直播、水管理･水分制御、形態･生育相
　分類コード01－01－75140500
2　担当者　木田義信･佐々木園子･大谷裕行
3　要　旨

乾田直播栽培で早期播種した「あきたこまち」に早期入水（２葉期）した場合の生育特性を標準期入水（３～４葉期）と比較した。
（１）、早期入水では葉齢が標準入水より進み、幼穂形成期で６日程度、出穂期で３日程度早まった。
（２）早期入水は標準入水より、茎数の増加が早く、６月末で早期入水の茎数は標準入水より多くなり、苗立ち数が少ない場合、早期入水は茎数確保に有利であると考えられた。
（３）早期入水は、標準入水より草丈がやや長く、葉色も早期入水が標準入水より濃く推移した。
（４）早期入水は、標準入水より、穂数や一穂籾数が多く、㎡籾数が多くなった。
（５）早期入水は、標準入水より㎡籾数が多いため、登熟歩合が標準入水より低くなるが、収量は、標準入水より高かった。
（６）等級は、早期入水も標準期入水も1等に格付けされたが、玄米タンパクは、早期入水のほうが標準入水よりやや高かった。
　以上より、早期入水は標準期入水より生育促進の効果がある。また、穂数、㎡籾数が多くなり収量が高まる。なお、早期入水は茎数が確保し易いことから、苗立ち数が少ない場合に有効な管理技術と考えられた。

4　その他の資料など